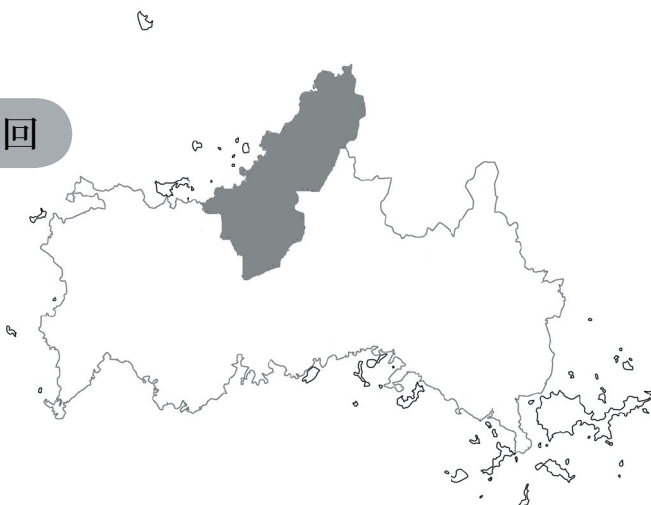


郡市医師会めぐり 第 19 回

萩市医師会



萩市医師会は平成 22 年に創立 80 周年を迎え県内では一番歴史のある医師会と聞いております。歴史を紐解くと、明治 8 年 9 月 15 日私立医学社という少し怪しげな結社から立ち上がったようです。(失礼いたしました。) その後は明治 15 年 3 月 6 日私立好生会設立、大正 9 年 3 月 12 日阿武郡医師会設立、昭和 7 年 7 月 27 日萩市医師会設立総会開催と記されております。現在では萩市と阿武郡の市町村合併により萩市医師会に統合されております。(小生も知りませんでした。が阿武郡医師会の方が歴史があるようです。) 所属医療機関ですが公的病院 1 施設、民間病院 6 施設、診療所 39 施設、会員数 83 名と中規模所帯の医師会です。

さて、萩市(写真 1)の紹介ですが、みなさんもお存じのとおり山口県の北部に位置し萩市と阿武郡を合わせると広大な面積となり、また大島、見島 2 島をも含んでおります。人口は 52,031 人(平成 26 年 3 月末)と年々減少の一途を辿っております。県内どこも同様でしょうが高齢化が加速しており、65 歳以上の人口が全人口の 36%を占めていて県内 13 市の内トップです。産業は大きな工場もなく観光業が主と思われませんが、年々観光客数も落ち込んでおりました。しかし、幸いなことに来年の NHK の大河ドラマ“花燃ゆ”が決定しておりますので市内

でも観光客が増えてくれるのではと早々と何かとイベントが催されております。しかし、医療業界はあまりこのブームに乗れそうにもありません。(観光客の方がここは住みやすい、一生住みたい



写真 1 萩市



写真 2 萩地域医療連携支援センター

とさせていただければ別ですが。) 交通網に関しては以前は陸の孤島状態でありましたが国体の時に小郡萩道路が整備され、かなり萩へのアクセスが改善されました。市内から新山口駅まで約 40 ～ 50 分で到着可能となりました。

次に萩市医師会の活動内容ですが毎月、新築された萩地域医療連携支援センター(写真 2)で例会を開催しており、各理事の先生方がご多忙の中、県医師会に出向かれ、出席された会議の内容等を会員にわかりやすく説明をしております。また年一度、“長北医学会”(写真 3)があり萩市、長門市の医療機関から日頃から実践されている興味深い医療を医師だけでなく看護、介護の幅広い分野から発表されております。ぜひ、ご興味がある先生方はおいでませ。さらに、レクリエーション関係も充実しており毎月“あひる会”といわれるゴルフコンペ、また“三矢会”(医師、歯科医師、薬剤師)のボーリング大会と積極的に行われています。

もう一つの活動として、以前にも述べさせていただきましたが長年力を入れてきた 24 時間 365 日の救急体制があります。ここ何十年も医師数はほとんど変化ありませんが医師年齢層は大きく上がっております。(相変わらず人口に対する医師数は最低です。) 2010 年の県医師会報の“いしの声”に掲載させて頂いた時、他の医師会の先生方から「よ～やるのお」と言われた救急体制も少し見直され休日急患センター(写真 4)の設立により、病院側では休日の一次救急が免除され二次救急に専念できるようになり、効率がよくなったと思われま

す。今後の課題ですが、萩市の医療機関の全体の悩みとして山陰地方ならではの人口減少に伴い、やはり人の確保が難しいところでしょうか。特に看護師不足は山陽以上に深刻と思われま



写真 3 長北医学会



写真 4 休日急患センター

制力がないためいつもこちらもお約束のセリフで「何かあったらいつでも戻っておいで」と言って送り出しますが、まず鮭のようには戻ってきません。この人材確保も医療機関各々でやらなくてはいけないため、医業を行うのにとっても不安定です。

以上、まとまりのない話でしたが思うがままに述べさせていただきました。ぜひ大河ドラマファンの先生方、どうぞ萩に足を運んでくださいませ。お待ちしております。

[萩市医師会広報担当理事 村田 洋一郎]